

大学図書館の現状と課題

平成21年度大学図書館職員短期研修

(京都大学会場)

2009年9月29日(火) 11:00~12:30

京都大学附属図書館

川瀬 正幸

目次

1. 社会の変化・大学の変化
2. 大学図書館の現状
3. 大学図書館の課題

1. 社会の変化・大学の変化

- グローバル化・規制緩和・競争原理の導入
- 経済危機
- 少子高齢化、生涯教育
- 社会連携・社会貢献の要請
- 社会的責任(CSR)と説明責任(Accountability)
- 国立大学・公立大学の法人化
- 目標管理、評価制度の導入
- アウトソーシングの導入
- 情報技術の進展

法人化で何が変わったか(国立大学の場合)

- 附属図書館から図書館へ
- 図書館事務部から合同事務部へ
- 専門職から一般職へ
- 公私立大学も視野においた大学図書館政策へ
- 予算削減
- 大学評価
- 教職員評価
- 護送船団から競争へ

大学図書館に関わる主要な政策文書

- 1973.7.25 「学術情報流通体制の改善について(報告)」
- 1980.1.29 「今後における学術情報システムの在り方について(答申)」
→学術情報システム構築の基礎→NACSIS-CATの稼働
- 1990.1.30 「学術情報流通の拡大方策について(報告)」
- 1993.12.16 「大学図書館機能の強化・高度化の推進について(報告)」
→電子図書館的機能の整備充実
- 1996.7.29 「大学図書館における電子図書館機能の充実・強化について(建議)」
→先導的電子図書館プロジェクト:国立5大学+10大学
- 2002.3.12 「学術情報流通基盤の充実について(審議のまとめ)」
→学術情報の体系的な収集、電子ジャーナルの安定的利用、学術情報発信機能
- 2006.3.23 「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」
- 2009.7 「大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について(審議のまとめ) —電子ジャーナルの効率的な整備及び学術情報発信・流通の推進—」

学術情報基盤の今後の在り方について(報告)より

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会
平成18年3月23日

II. 学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について

1. 基本的な考え方

- ・総合的・戦略的整備が必要
- ・一定の政策的配慮が必要
- ・連携するシステムの構築が必要
- ・国の施策として推進する体制構築が必要

2. 大学図書館の現状

- ・大学図書館の基本的な役割
- ・電子化の急速な進展
- ・増大する大学図書館の負担

3. 大学図書館を取り巻く課題

- ・大学図書館の財政基盤が不安定
- ・電子化への対応の遅れ
- ・体系的な資料の収集・保存が困難
- ・目録所在情報サービスの問題点

4. 今後の対応策

- ・大学図書館の戦略的な位置付け
- ・電子化への積極的な対応
- ・今後の電子化を踏まえた大学図書館の強化すべき機能
- ・全国の大学図書館に対する基盤としての目録所在情報サービスの枠組みの強化
- ・大学図書館のサービス機能の強化
- ・大学図書館と社会・地域との一層の連携の推進
- ・図書館サービスの問題点

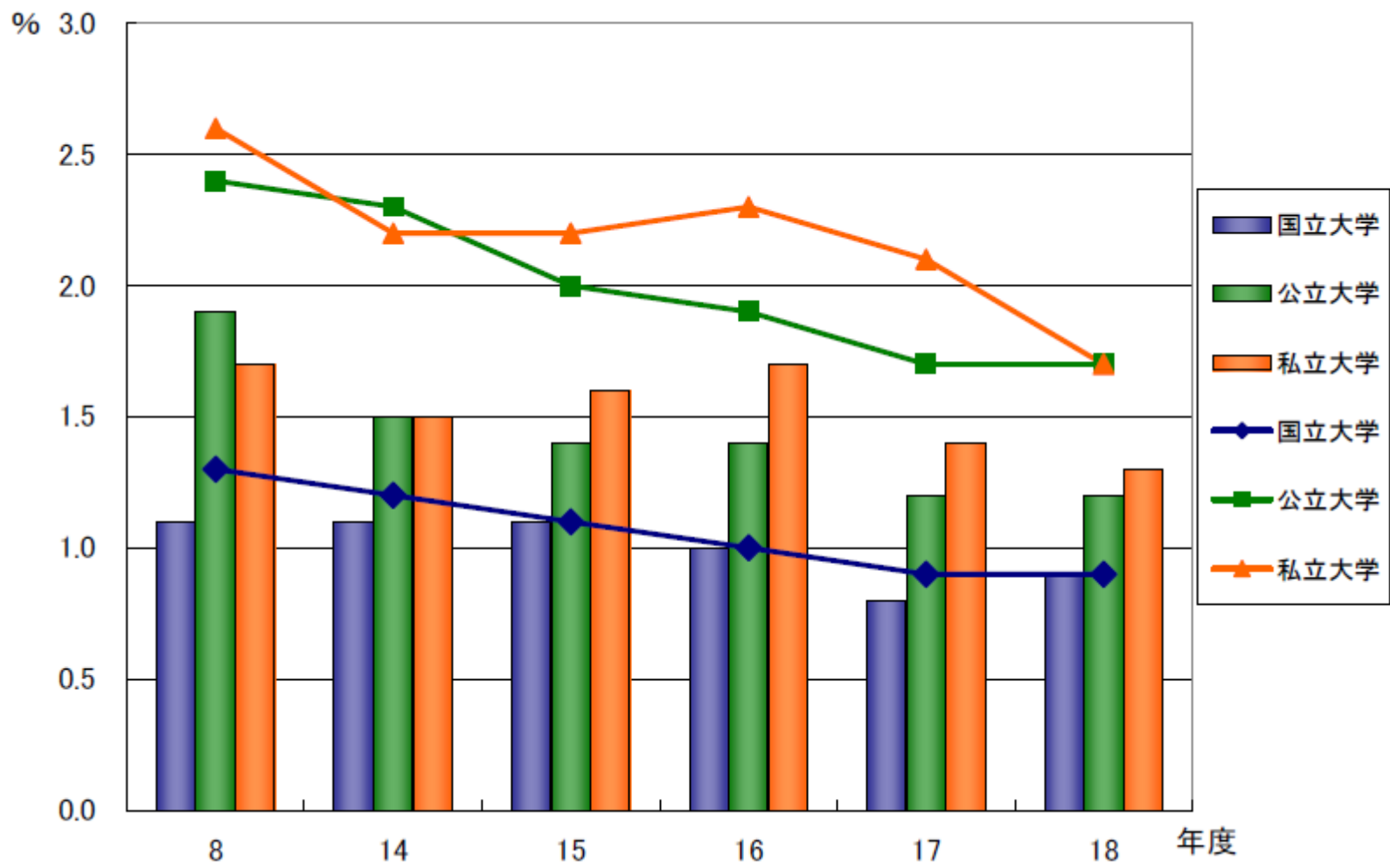
2. 大学図書館の現状

- 「学術情報基盤実態調査」(文部科学省)より
 - － 図書館職員数
 - － 図書館資料費及び図書館運営費
 - － 図書館ホームページでのサービス提供
 - － 電子ジャーナルの所蔵種類数
 - － 休日開館の実施

図書館職員数の変化

	平成14年			平成19年		
	専任	臨時	合計	専任	臨時	合計
国立大学	2,149	1,717	3,866	1,858	1,902	3,760
公立大学	485	318	803	374	417	791
私立大学	4,943	3,863	8,806	4,079	4,409	8,488
合 計	7,577	5,898	13,475	6,311	6,728	13,039

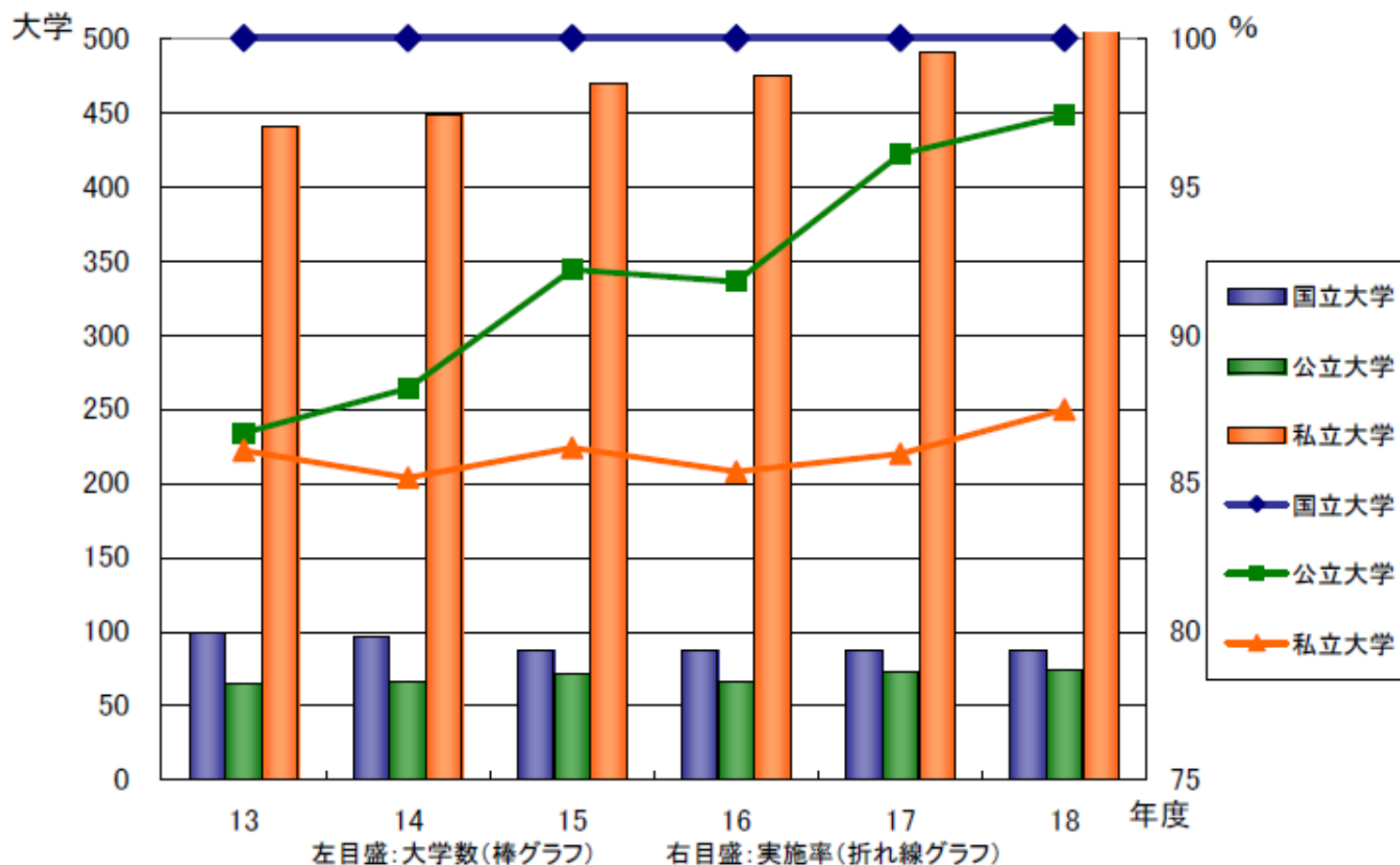
大学総経費に占める図書館資料費及び図書館運営費（平成18年度）



* 棒グラフ: 大学総経費に占める図書館資料費の割合(各年度実績、単位:%)

* 折れ線グラフ: 大学総経費に占める図書館運営費の割合(各年度実績、単位:%)

図書館ホームページでサービスを提供している大学数と実施率（平成18年度）

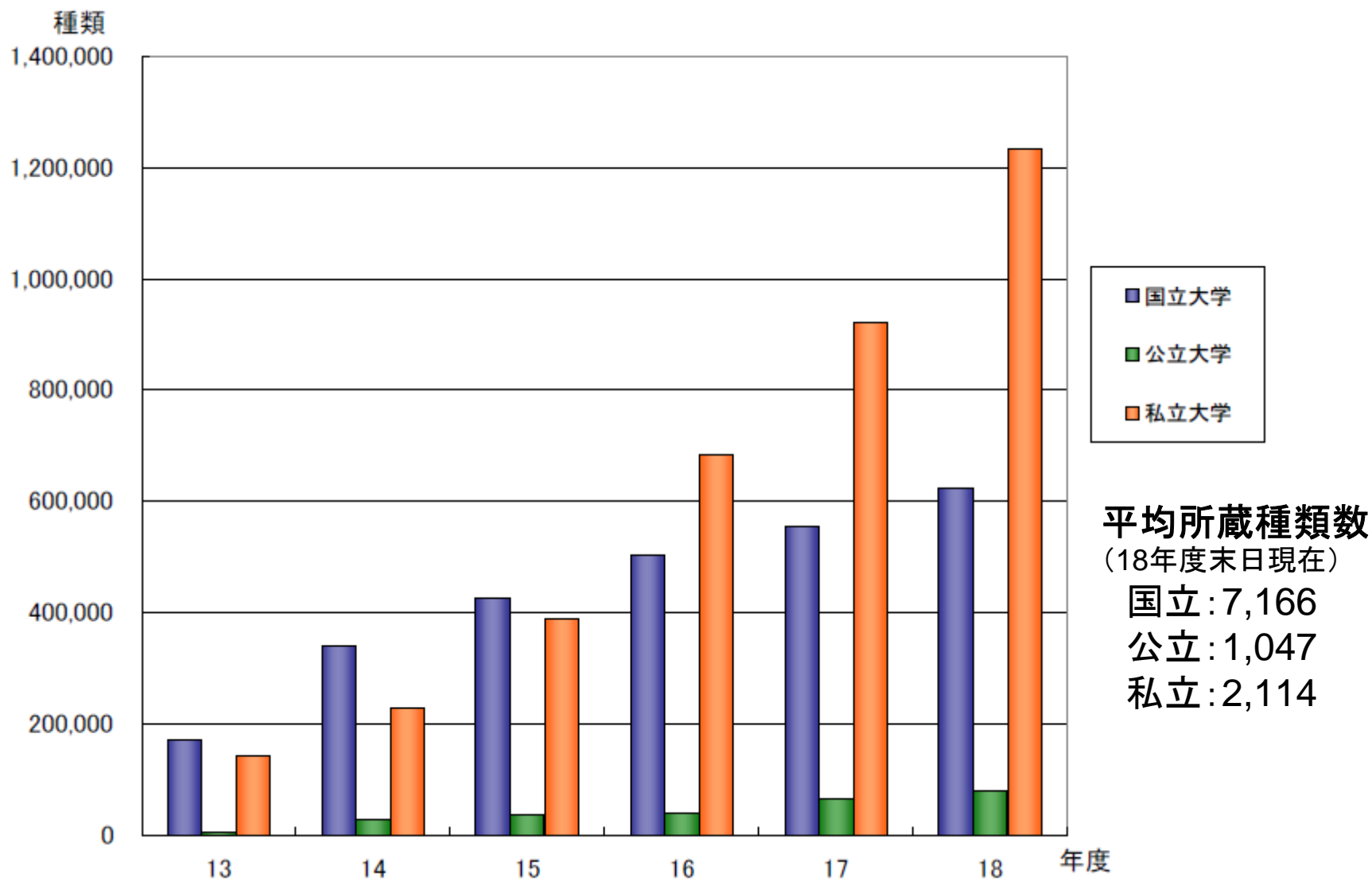


* 棒グラフ: 図書館ホームページでサービスを提供している大学数(単位: 大学)

* 折れ線グラフ: 上記のサービス提供の実施率(単位: %)

注) ここでいうサービスとは、全文閲覧サービス、資料検索サービス、依頼申込サービスを指す

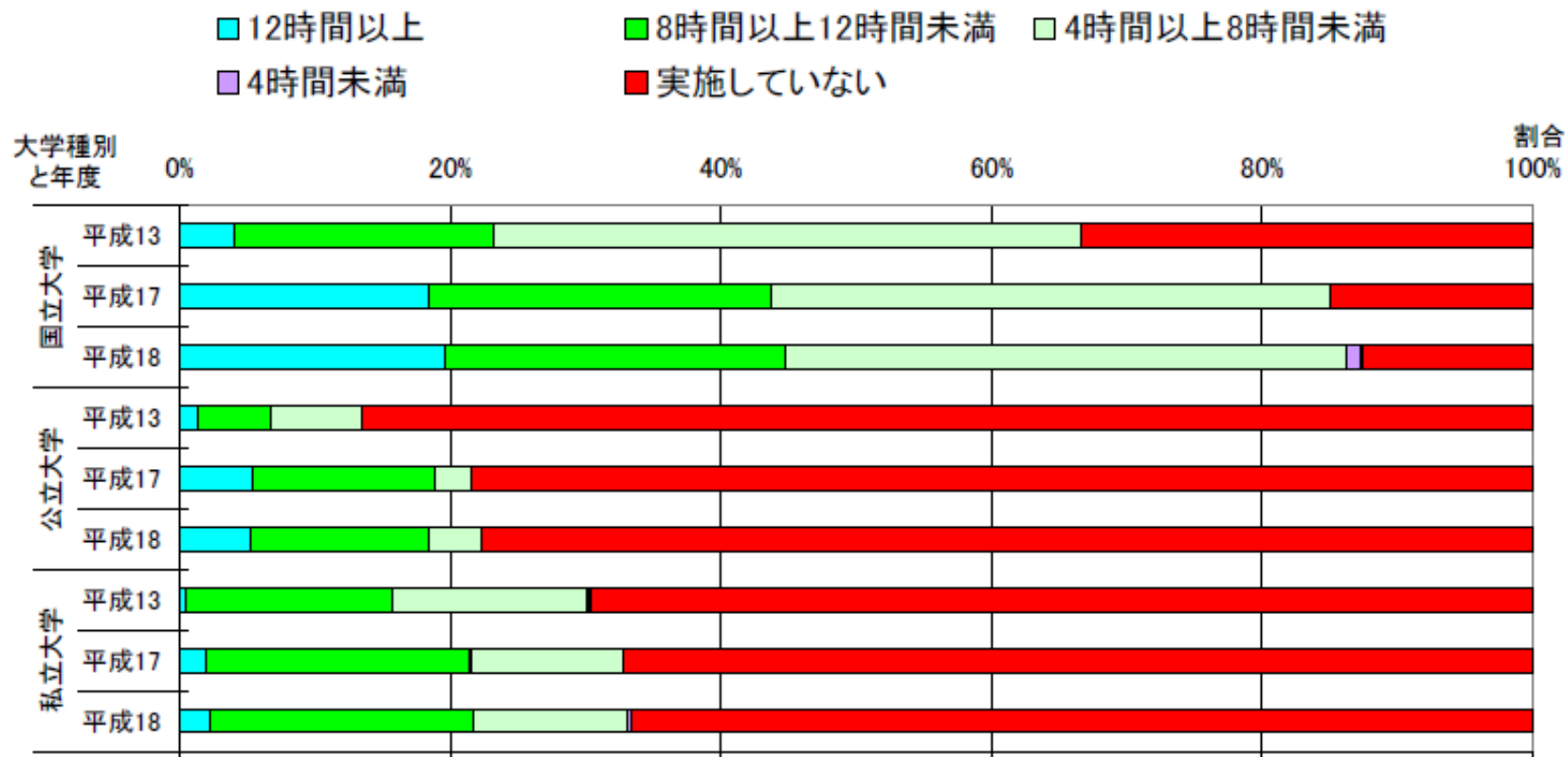
電子ジャーナルの総所蔵種類数と平均所蔵種類数(平成18年度)



* 棒グラフ: 総所蔵種類数(年度末日現在)(単位: 種類)

注) 種類数はいずれも延べ数

休日開館の実施状況(平成18年度)



大学図書館の基本的な役割

- 高等教育と学術研究活動を支える重要な学術情報基盤であり、大学にとって必要不可欠な機能を持つ中核施設
- 電子情報と紙媒体を有機的に結びつけた、新たな意味での「ハイブリッド・ライブラリー」の実現が求められている

電子化の急速な進展

- 電子ジャーナルの普及、所蔵資料のデジタル化等、学術情報流通における電子化が急速に進展

増大する図書館の負担

- 人件費等経費の節減が進む一方、業務の多様化及び高度化に伴う実質的な業務の増大
- 外国の出版社等が発行する学術論文誌の価格上昇が図書館資料費を圧迫

3. 大学図書館の課題

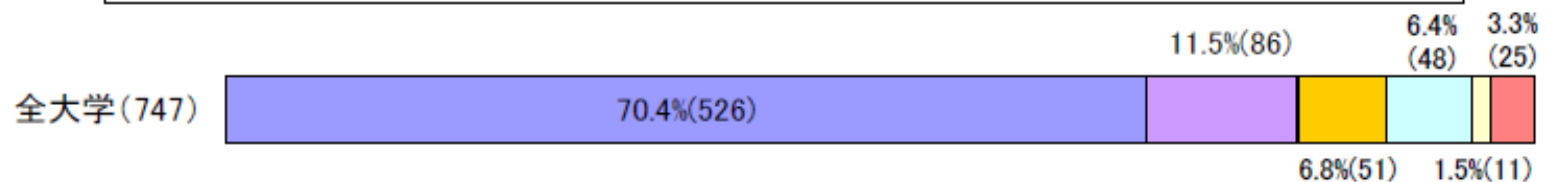
- 「学術情報基盤実態調査」(文部科学省)より
 - － 組織・人員面における課題
 - － 経費面における課題
 - － 設備面における課題
 - － 運営・サービス面における課題

大学図書館の管理運営等に関する課題1

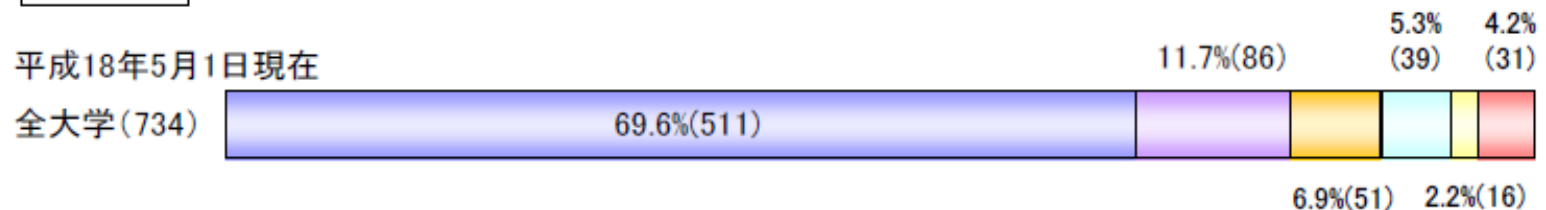
(1) 組織・人員面における課題

組織・人事面においては、70.4%の大学が「専門性を有する人材の養成・確保」を課題として挙げています。

- 専門性を有する人材の養成、確保
- 専任館長、教員、専任職員の確保
- 職員のキャリア・パスの確保
- 非常勤職員・外部委託職員の活用
- その他
- 特になし



参考



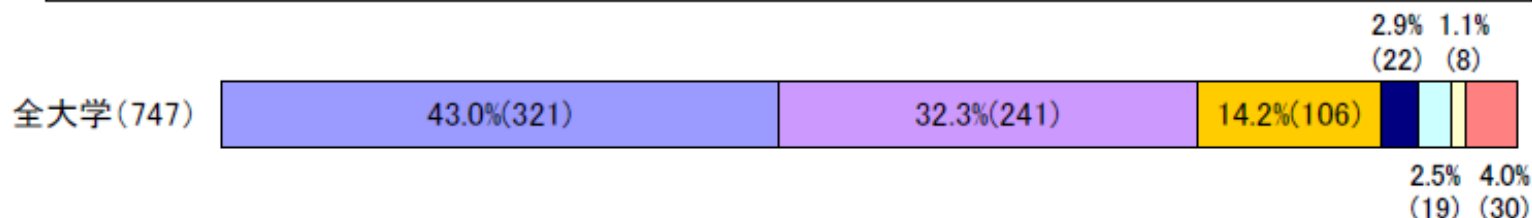
※ ()内は大学数

大学図書館の運営等に関する課題2

(2) 経費面における課題

経費面においては、「外国雑誌・電子ジャーナル購入に係る経費の確保」(43.0%)、「図書購入に係る経費の確保」(32.3%)を課題として挙げています。

- 外国雑誌・電子ジャーナル購入に係る経費の確保
- 図書購入に係る経費の確保
- 図書館施設設備に係る経費の確保
- 外部資金の獲得
- 図書館経費の学内共通経費化の推進
- その他
- 特になし



参考

平成18年5月1日現在



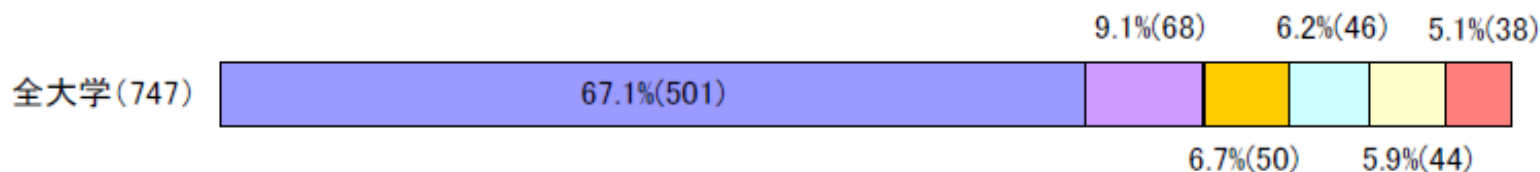
※ ()内は大学数

大学図書館の運営等に関する課題3

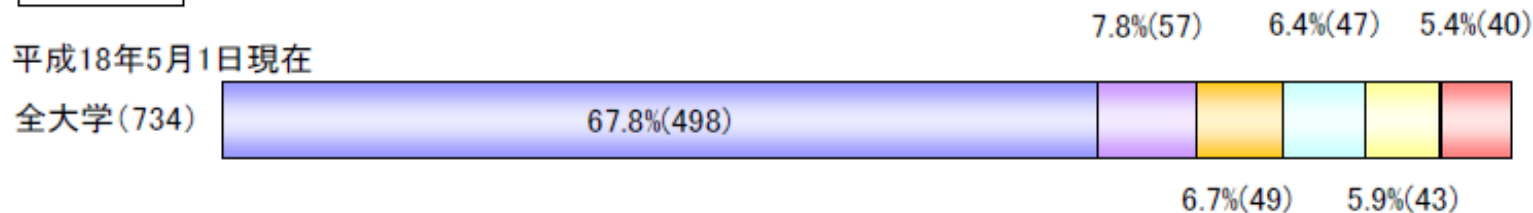
(3) 設備面における課題

設備面においては、67.1%の大学が「資料所蔵スペース狭隘化の解消」を課題として挙げています。

- 資料所蔵スペース狭隘化の解消
- 自動化のための設備整備
- 閲覧座席数の確保
- 資料保存・劣化防止のための環境整備
- その他
- 特になし



参考



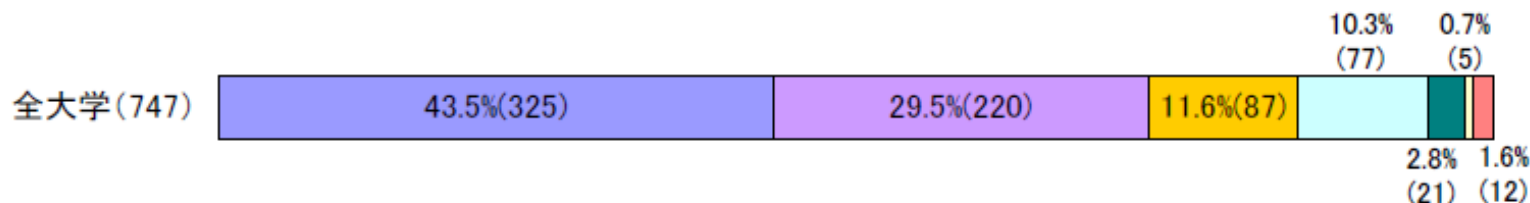
※ ()内は大学数

大学図書館の運営等に関する課題4

(4) 運営・サービス面における課題

運営・サービス面においては、「利用者サービスの向上」(43.5%)、「大学図書館の位置付けの明確化」(29.5%)を課題として挙げています。

- 利用者サービスの向上
- 大学図書館の位置付けの明確化
- 電子情報の提供・保存環境の整備
- 情報リテラシー教育の充実
- 社会・地域との連携の強化
- その他
- 特になし



参考

平成18年5月1日現在



※ ()内は大学数

大学図書館の財政基盤が不安定

- 電子ジャーナルへの対応とあわせて、安定的な学術情報収集への財政投資は喫緊の課題

電子化への対応の遅れ

- 電子図書館化を進めた大学図書館も、電子情報の長所を活かしきれていない

体系的な資料の収集・保存が困難

- 基盤的経費の減少、収蔵スペースの狭隘化、資料保存のための環境が未整備のため、体系的な資料の収集や保存等が困難に

図書館サービスの問題点

- 主題知識、専門知識、国際感覚を持った専任の図書館員が不十分
- 情報リテラシー教育の位置付けが不明確で、利用者ニーズの把握が不十分

重要課題への対応策

- 図書館機能の整備・充実・強化
 - 大学図書館の位置づけの明確化
 - 組織・運営体制の強化
 - 財政基盤の強化
 - 研究開発機能の強化
 - 事務改善、業務の効率化
- 図書館職員の育成・確保・資質向上
- 利用者サービスの向上
- 社会貢献・社会連携
 - 他大学等との連携・協力
- 国際化